

## 100度を超える部屋



「80度を超えたよ。あと少しだ！」

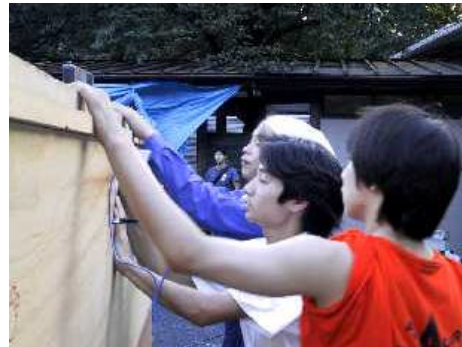
「あっちー！汗が吹き出てくるよ。」

近づけないほど熱いこの木の小屋は、ソーラーカーのボディを焼くためにつくられた釜です。

より硬く丈夫なボディをつくるために、外側の素材を100度以上の温度で焼く必要があります。

そのために必要な釜の制作を、主に高等部生が、物理の先生や大学生に指示を仰ぎながら進めてきました。ベニヤ板で外壁を組み立て、内側に断熱材を石膏ボンドで貼り付け、中に大型のヒーターで熱を送り、温度を上げるという仕組みです。

そして板に小さな穴を開け、温度計を差し込んで内部の温度検査も行いました。炉に近づくと、中の熱が伝わりものすごい熱さです。場所によっては熱が伝わりにくい部分もあり、なかなか均等に温度が上がっていきませんでした。この日は90度まで上げることができました。



断熱材を通りぬけて伝わってくる釜の熱気のように、ソーラーカー工房のみんなも速くて強いソーラーカー作りに情熱を燃やしています。